

⑥熊本市の子どもの体力・運動能力の現状及び、向上に向けた具体的な指導や取り組みを教えてください。

(回答：健康教育課)

熊本市の子どもの体力・運動能力は、近年わずかながら向上傾向にはあるものの全国平均に比べ下回る種目が多いのが現状です。この状況を踏まえ、体力向上実践校を指定し実践と発表を行い、また体力向上ステップアップサポーターを学校へ派遣し体育授業や体力向上に向けた指導助言等を行っています。さらに、昨年度より全小学校を対象にクラス毎に8の字とびの記録に挑戦する「わくわくチャレンジ長なわとびフェスタ」を実施し、多くの学校が参加し休み時間等を利用して記録に挑戦しました。

⑦本校では、学校・保護者が協力して食育・睡眠に関する取り組みをしています。各校でのよい取り組み等を紹介し合う機会を設けることで、全体の底上げができるのでしょうか。

(回答：健康教育課)

食育の取り組みについては、例年、教育委員会主催の食育担当者会において、各学校の実践発表や、グループワークで各校の取組の状況を報告しあうなどの研修を行っています。また、睡眠など生活習慣に関する内容については、同校区の幼保小中連携協議会等において、課題を出しあい連携して改善に向けて取り組むなど、機会を捉え各校の情報交換を行っているところです。

3 教育環境や地域社会との連携等に関して

①自分たちの子どものときのように、地域との密接な関係の中で地域全体で支えあうような基礎固めが大切な気がします。また一方、地域の高齢化も進み、理想が通用しにくくなってきているようにも感じます。

(回答：教育政策課・学務課・指導課)

近年、社会が複雑多様化し、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、地域との密接な関係の中で子どもの育成を支えることが難しくなっている状況です。

1-④でも回答していますが、教育委員会では「学校支援ボランティア制度」、「学校評議員制度」の活用や「心がやけ月間」を通して、地域との連携協力に努めるとともに、平成24年度からは、教育委員が地域へ出向き、保護者や地域住民と直接意見を交わす「タウンミーティング」を実施しているところです。

今後も、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもの育成を行っていきけるよう取り組みを進め、地域の絆を深めていきたいと考えています。

②下校時の事件等が発生しています。学校周辺での不審者対策・安全対策をどのように進めていくべきでしょうか。

(回答：健康教育課)

児童生徒に対し、不審者への対応についてより実践的な指

導を行うとともに、各学校で組織されている安全対策協議会を活用しながら、下校時等の見守り体制を整えていく必要があります。また、学校毎に「こどもひなんの家」の設置協力を地域へ更に広めることや、警察に情報提供し、登下校中のパトロール強化等の依頼を積極的に行なっていくことも大切であると考えます。

③地域行事などへの先生方の参加は必要かつ大変有意義と考えます。しかし積極的参加は少ないものです。時間外手当の充実他、その推進を図る手立てはないもののでしょうか。

(回答：教職員課)

教職員は行政職員と異なり時間外手当制度がなじまないとの理由により、法律（公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法）に基づき、一律に給料月額に、その4%の額（これを「教職調整額」といいます。）が加算されて支給されています。また、教職員に時間外勤務を命令することができる場合については、政令で、①生徒の実習、②学校行事、③職員会議、④非常災害や児童生徒の指導に関して緊急の措置を必要とする場合に限定されているところです。教職員の地域行事への参加は有意義であると認識しておりますが、地域行事への参加を公務扱いとすることは難しい状況です。

④屋外プールに、紫外線よけ設備ができないでしょうか。

(回答：施設課)

現在、プールサイドにシェルターの設置やテントを張るなどして熱中症や紫外線対策を行っています。プール全面をネットで覆うためには、ネットを支える支柱が必要となり、強風の影響など安全面で問題があり、また、施設整備に要する予算の確保も厳しい状況です。

⑤築年数が経った校舎トイレ改修を是非お願いしたい。

(回答：施設課)

平成12年度から3年間で集中的にトイレ改修工事を行い、男女とも1箇所につき1つは洋式トイレを設置しています。また、屋外トイレについても、学校からの要望に応じ設置や改修を順次行っている状況です。

今後も学校の状況を確認したうえ、不都合な面がなくなるよう出来るだけ対応をしたいと考えています。

4 その他

①夏休み後半に実施の校内除草作業後のゴミ処理（収集・廃棄）を、今一度ご検討いただきたい。

(回答：学務課)

PTAで実施される校内除草作業については、収集・廃棄までをPTAで対応されているところですが、学校によってゴミの排出量の違いや、収集運搬用車両の手配の状況が異なることから、排出量が多く処理に苦慮するようなケースについては状況を把握し対応を検討したいと考えます。

→続きは次号で

